



## 送迎時における穿刺部出血による原因と予防対策について

第44回ポランテア研修交流会開催

二月十七日(日)十時から、第四十四回ポランテア研修交流会を小倉リーセントホテルで開催しました。講師には、阿部クリニックの臨床工学技士長の三好 誠氏と看護主任の黒田桂子氏をお迎えして、「送迎時における穿刺部出血による原因と予防対策について」と題して講演をしていただきました。

今回は、事務局を含め、二十五名が参加しました。

初めに、山田理事長が、「本日の研修会は、送迎ポランテアをしていただいた方の皆さんに大変、係わりの深い内容ですので、一緒に勉強していきたいと思っております」と挨拶があり、講演に入りました。

### 透析患者は

全国で二十九万人以上

三好氏より「皆様方には平素より送迎ポランテアにご協力していただきまして、本当にありがとうございます。本日は黒田主任から当院で行っている止血方法や『送迎時における穿刺部出血に



阿部クリニック  
三好 誠 臨床工学技士長

送迎時に出血を起こした場合には、一番に患者さん自身に出血部位を押さえてもらうことが基本です。皆さんは運転をされているので、安全な場所に車を止めてから処置の準備をして下さい。

**処置方法としては**

- ① 手袋をはめる
- ② 血液が下に落ちるのを防ぐ為にブルーシート(防水シート)を膝や手の甲など

### もし、送迎中に出血を起こした場合

#### どう対処したらいいの？

- ① 送迎時に出血を起こした場合、一番に患者さん自身に出血部位を押さえてもらうことが基本です。皆さんは運転をされているので、安全な場所に車を止めてから処置の準備をして下さい。
- ② 処置方法としては
- ③ 患者さんに押さえてもって、患者さんに反対側の手で腕を支えてもらう。その時に手を心臓より高くして固定してもらう。
- ④ 固定したテープをはがし、新しい止血ボタンと交換する。その時に強く締め付けると血液の流れが悪くなるので強すぎず、弱すぎずテープで止めて下さい



阿部クリニック  
黒田 桂子 看護主任

んは、全国で二十九万人から三十万人くらいに増えています。

約三十五年前の透析は、一日八時間、ダイアライザーも大きく、患者さんにとっても負担が大きかったです。

しかし、今では、透析機やダイアライザーも進歩し、体外循環量も少なく、透析効率もアップし、機械の安全性も増して、良くなっています」と話されました。

### 止血ボタンの固定方法は

どのような仕方があるの？

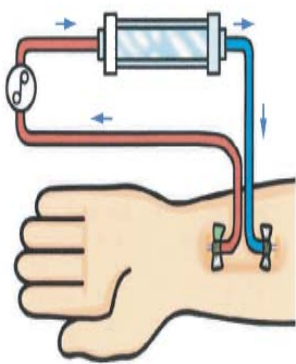
止血ボタンの固定方法はテープによって行います。固定方法は三つあります。

- ① バッテン止め  
出血しやすい患者さんや止血ボタンの圧迫によって血管に負担を掛けたくない時などに使用します
  - ② 一周巻き  
止血がやや困難な方などに使用します
  - ③ バンド固定  
安定感があります
- 固定方法は患者さんの希望と血管の状態によって決めています。

### 針の太さや種類は

一人一人違う

引き続き黒田氏より「今



まで皆さんも、健康診断や不調を感じて病院で採血された経験があると思います。採血をした後に、血が止まらなくて、不安になった事はあまり無いと思います。

採血に使用されている針は、細いもので針穴を押さえていれば直ぐに血液は止まります。しかし、透析患者さんに使用する針は治療目的の為、太く、針の種類や太さも色々あり使用される針は、一人一人違って、血管の太さや血管の状態、針の刺す部位によって決められます。

(裏面につづく)



いろいろな巻き方があります

(前面よりつづき)  
**透析治療とは**

### じつじつものなのか

透析治療とは、手術によって太い血管(シャント)を作り、一本の針からたくさん血液を体外に取り出し、腎臓の変わりをするダイアライザーに血液を送り出されます。

そして、きれいになった血液をもう一本の針によって身体へ戻されます。当然、二本の針を刺す為、針穴と出血部位も二ヶ所になります。採血で出来る針穴とは違って、太い針を使用している為に透析患者さんの出来る針穴は大きく、出血も起こりやすくなります。

### 止血方法は

人によって違う

次に止血とは、針を抜いた後の針穴を圧迫し、血液



が漏れ出すのを止める事です。止血にかかる時間は、約十分から十五分ですが、使用する針の大きさ、針を刺す部位、血管によって止血時間が異なります。

### 再出血の

原因と対策とは・



再出血とは、一旦止血したと思われても何かのきっかけで出血を起こすことです。原因としては  
①透析後、ベッドに起き上がる時や更衣中や乗車中などに腕を曲げる事。  
②針を刺した方の腕で重い物を持ちたり、バッグを掛けたりする事。  
③力を入れたり、手をついたりして針を刺した方の腕に負担に掛ける事。  
これらにより、止血ボタンがずれたり、瘡蓋がとれ、針穴の圧迫がうまくいかず、再出血を引き起こす原因となってしまう事。

特に冬の衣類は厚手で長袖の物を着ています。その中から一部をご紹介します。

### 講演後の質疑応答

たくさん質問をいただきました。

Q・テープで固定している患者さんが再出血した場合、テープまたはバンドのどちらで固定した方がいいですか。

A・基本的にはテープだけで一周巻いてもらって固定して下さい。より一層固定を安定させる意味で利用しています。

Q・患者さんは透析する前とした後の具合はどうですか。

A・透析患者さんは身体



の為、針を刺した部位を隠してしまい、出血に気付きにくくなります。と話され、その後、二人一組になり、止血ボタンの交換の実践を行いました。

黒田氏より「止血困難な場合には、病院に来院して下さい。それが一番安全

Q・今後、オーバーナイトの透析もできるようになっていと思うのですが、どのように進んでいますか。  
A・各施設の医師の判断で、必要であるのであればオーバーナイトの透析を行います。透析時間は八〜十時間行います。



だと思えます。今、皆さんが実践した事を落ち着いて行っていただければ問題ないと思います」と話されました。  
続いての質疑応答では、たくさんさんの質問があり、丁寧に答えて頂き、研修会は終了しました。  
今回「さわやか」のボランティアさんで難聴の方が参加されることになり、情報保障として北九州市登録手話通訳派遣センターより二名の方に来ていただきました。「さわやか」では初めての試みでした。  
午後からの交流会は、ほえみ佐世保の久保寿光理事よりご挨拶をいただき、八幡事業所のボランティアー神田正巳さんの乾杯が始まりました。  
各テーブルでは、いろいろな話で盛り上がっていました。その後は、食事をしながらゲームを楽しみました。今回は、剣玉と紙飛行機トランプをしました。皆さん童心に戻って楽しまれました。  
最後に、岡副理事長より「次回の研修交流会でお会いできる事を楽しみにしています」と閉会の挨拶があり、研修交流会は十四時に終了しました。